

令和 6 年度 第 3 回 仙台市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 議事録

1 日時 令和 7 年 2 月 7 日（金）午後 3 時 00 分～午後 4 時 10 分

2 場所 ショーケー本館ビル 地下会議室 J K

3 出席者

[地域福祉専門分科会委員] 12 名（委員定数 17 名）

阿部重樹委員 伊丹さち子委員 小川登委員 小岩孝子委員 佐々木洋委員
庄子清典委員 立岡学委員 傳野貞雄委員 中田年哉委員 村山くみ委員
谷津尚美委員 渡邊礼子委員

（五十音順）

※欠席委員：大内修道委員、高野章子委員、釣舟晴一委員、三浦啓伸委員、渡邊純一委員

[事務局]

○健康福祉局 大槻地域福祉部長 庄子参事兼地域包括ケア推進課長
千代谷総務課長 佐藤社会課長
坂井障害企画課長 穴戸障害者支援課長
小笠原高齢企画課長

○こども若者局 三井総務課長

[オブザーバー]

○仙台市社会福祉協議会より 4 名

4 次第 (1) 開会

- (2) 会長挨拶
- (3) 議事 せんだい支えあいのまち推進プランの中間評価の結果について
- (4) 報告事項
- (5) その他 せんだい支えあいのまち推進プランの改定について
- (6) 閉会

5 内容

- (1) 開会
- (2) 会長挨拶
- (3) 出席状況の報告
 - ・ 5 名の委員が都合により欠席される旨を報告
 - ・ 過半数の委員の出席により、定足数を満たしていることを報告
- (4) 議事
 - ・ 議事録署名人は、会長と、他 1 名については立岡学委員に依頼→立岡委員承諾

議事 せんだい支えあいのまち推進プランの中間評価の結果について

○社会課長

〈資料 1、資料 2 に基づいて説明〉

〈質疑応答〉

○立岡委員

担当課がそれぞれ事業を持っているので、各事業担当よりAやBなどの自己評価が提出されると思う。その評価について、例えば社会課と障害者支援課で基準について調整をしているかは分からないが、評価の基準も各課や担当者による甘い辛いがあると思われる。全ての評価がAだと思うところもあるが、そう考えると、今回の自己評価はCがついていないため、あえてBをつけている事業は基本的に厳しめの評価と捉えてよいのではないか。その評価の基準を、社会課としてどう定めて各課に依頼したのか教えてほしい。

また、行政の自己評価に対しどう考えるか関係団体が問われたとしても、例えば再犯防止であれば、矯正管区や関係課が様々な会議等を通して懸命に再犯防止に取り組んでいるため、行政の事業内容を理解したうえで評価をしていると思う。しかし生活困窮の事業でいえば、正直なところハローワークがどれだけ事業を理解しているのかと思う部分はある。社会課として、全体を見て行政の評価を調整したかなどご教示いただきたい。

○社会課長

事業の自己評価は基本的に担当課に評価を委ねている状況。一律の基準は設けていないため、やはり評価にも多少の差が出てくる可能性がある。

今回のアンケートの中でも、目標値などが具体的にわかるとよいという意見もあったため、一定の事業目標のあり方が大事になってくる。それに対する到達度がないと評価の均一性や統一が難しくなるため、今後の課題の1つと捉えている。

○佐々木委員

資料1の分科会による総評の1行目に「アンケート調査の結果から、事業が概ね計画通りに進められたものとする。」という表現がある。参考資料である個別事業結果から数字を拾ってみたところ、自己評価に対するマイナスの評価が、自己評価Bに対するものかAに対するものか少し分析するとよいと思う。同じように自己評価に対してプラスの評価をしているものについても、Aに対するものかBに対するものか丁寧に検討する必要があるのではないか。

このアンケートは、あくまでも仙台市の事業の進捗に対する評価がプラスかマイナスかというものである。事業自体が進捗しているかどうかとは少し異なると思われる。行政による自己評価の中で「概ね達成」のA評価が75%であり、全体としては進捗していると個人的にも評価するが、アンケートで得た評価の分析は丁寧に行ったほうがよいと考える。

○社会課長

今回の「▼」という評価は、基本的に自己評価のSまたはA評価に対し、少し高すぎるのではという評価であった。行政が考える達成の評価と皆様の考えに受け止めの違いがあるということ、結果から理解したところである。今後評価結果についても詳細を確認し、事業担当課に検討してもらいたいと考えている。

○佐々木委員

承知した、分析をしっかり行ったのち、共有して進めていただきたい。

○阿部会長

次年度の話になるが、分科会にとっても「△」「▼」がどの評価に対して出ているのかは関心のある点である。よろしくお願いいたします。

○小川委員

素朴な疑問だったのだが、「小地域福祉ネットワーク活動への支援」の部分で、アンケート先が民児協のみとなっている。地区社協も市社協から依頼されていたが斜線になっている

ので、どういうことか教えてほしい。

○社会課長

小地域福祉ネットワークのアンケート先は民児協 1 か所に依頼している状況である。

○阿部会長

市社協の地域福祉活動計画でも同様にヒアリング調査を依頼しているため、オーバーラップしている部分と相違している部分があるかと思う。今回市社協はオブザーバーとして参加いただいているが、今発言できることはあるか。委員の皆さんが認めていただけるのであれば、発言をお願いしたい。

○仙台市社会福祉協議会 早川地域福祉部長

市社協では、委員がほぼ重複している地域福祉活動計画の中で、地区社協の方に地区社協調査を行いながら進めている。社協としてはその調査で小地域ネットワーク活動を評価していこうという動きがある。

○阿部会長

小川委員の質問については、今後市社協側が主体となった調査の結果として報告されると理解してよろしいか。

○佐々木委員

仙台市と社会福祉協議会でそれぞれプランを持っており、今回の支えあいのまち推進プランは仙台市の計画ということで、民児協のみに調査を依頼したことと思う。

地域福祉活動計画は社会福祉協議会の計画で、そちらは全部の地区社会福祉協議会に対しヒアリング調査したものについて、来月の懇談会で取り組み状況を報告したいと考えている。

○大槻地域福祉部長

少し補足すると、小ネットの活動支援事業で、なぜアンケート先が民児協だけで、市社協がアンケート先になっていないのかという質問と思う。

この中間評価を審議いただく際に事務局より説明したと記憶しているが、事業の実施主体にアンケートするのではなく、関係する支援機関にアンケートをとり、第三者的な立場で中間評価をいただくという趣旨で実施した。そのため、この事業では市社協は実施主体という意味でアンケート先から外しているという理解でよろしいかと思う。

○阿部会長

区分けをしたうえで、今度は市社協自体が小地域ネットワーク活動について、主体となってヒアリング調査を行っている。

仙台市と仙台市社会福祉協議会の両方が補い合って地域福祉の推進活動をしており、来月には地域福祉活動計画の報告を合わせて確認し、活動の全体を見ていくことになろうと思う。

○小岩委員

資料 2 の中間評価アンケート結果まとめ（確定）のなかで、「？」「▼」のところが少し気になっていた。個別の評価を見ると、例えば 12 のひきこもり者地域支援事業では「？」がついていて、連携への取組に対する評価では「新たな連携先として当法人が記載されているが、各事業担当者に確認したところ連携の実績が確認できなかった。」とある。これはどういうことか気になった。この評価をどう判断すればよいのか、元々連携先としてアンケートを実施しているはずだが、このような評価のため不思議に思った。

また 15 の老人クラブへの活動支援でも、連携への取組に対する評価が「？」とされてい

るのを見ると、連携先として社会福祉協議会や民児協や各種ボランティア団体というより広範な連携により活動していると記載されている。こちらは良い意味での「？」であり、先ほどの引きこもり事業の「？」とは意味合いが違うのではないかと思う。資料1の実施目的の部分に次年度以降の取組に生かしていくと記載があるため、さらにきちんと分析して記載すべきではないかと感じた。

○阿部会長

さきほどの立岡委員の発言と方向性は同じかと思う。最初の事業についての「？」評価は、回答内容整合性がとれていないのではないかと、またその回答について事務局でどう評価しているかという質問だったと思う。回答をよろしく願いたい。

○宍戸障害者支援課長

ひきこもり事業のアンケート先をアスイクに選定したが、若者子育て系の団体であるため、今までに障害の福祉分野とはそれほど連携していなかったというところから、このような回答になっていると思われる。ただ法人のホームページなどでは、従前からひきこもりについても支援を行っている団体であることが見受けられる。今回の回答を受け、ひきこもり支援センターやこども若者局と連携、協力しながら事業を進めていきたいと考えている。

○小笠原高齢企画課長

老人クラブへの活動支援については、連携の取り組みという点で環境美化活動や小学校、児童館との連携をあげている。主な連携先として町内会、小学校、地域包括支援センターと記載したが、仙老連からは社会福祉協議会や民生委員など、担当課の記載以外にもより幅広く連携しているため、「？」という評価をいただいたのだと思われる。

○小岩委員

老人クラブの件は理解した。ひきこもり事業について、ひきこもりをどう捉えるかが課題だと思っており、広く捉えると障害も含まれると考える、違和感を覚えた。教育分野や子育て分野だけでなく広い意味で捉える必要があるため、障害者という視点も持って事業を実施すべきだと感じた。

○阿部会長

事務局より今後さらにしっかり連携していきたいという回答もあったため、今のような意見も踏まえ事業を進めていただきたい。

総評案だが、冒頭事務局から案内があったように、意見表を受け付けるようである。何か意見が出てきた場合に私に対応を任せていただくことも含め、分科会の総評結果としてホームページに公表することについてお認めいただきたいが、よろしいか。

<委員承諾>

○阿部会長

こちらは意見ではないが、資料1の社会課としての総評の中で、「聴き取り調査の中では、行政の自己評価の基準が不明確な部分がある」や、「事業を実施した後の結果が分からない」といった意見があったとのことである。今後聴き取り調査を行う可能性もあるため、中間評価に関わらず、現場ではこのような思いを持っているということで、説明できるよう準備してもらいたい。

特に事業を実施したあとの結果が分からない、立岡委員も発言されたように行政の自己評価の基準が不明確だという点について、こちらは社会課長もご発言されているように、評価をするときに必要な視点だと思うため、一応含みおいていただきたい。

(5) 報告事項

〈委員、事務局ともに報告事項なし〉

(6) その他

その他 せんだい支えあいのまち推進プランの改定について

○社会課長

〈参考資料 2 に基づいて説明〉

○谷津委員

市民向けのアンケートを実施するとのことだが、どのように行うのか教えていただきたい。

○社会課長

アンケート内容は今後検討するが、無差別に 5,000 名の方を抽出し、アンケートを送付する形としたいと考えている。

○谷津委員

無差別ということだが、当プランを検討する際に、幅広く公平な意見が必要だと思うため、障害のある方や外国籍の方の意見も反映されるような渡し方や、分かりやすい言葉などを使用する配慮なども必要だと思う。

また、このようなアンケートはどうしても大人の意見が中心になると思う。重点事業やその他の事業の中で子どもや障害の分野が少ないという発言をしたと思うが、自分の声が反映されにくい人たちの意見も拾えるようなアンケートになるとよい。

○社会課長

皆様に分かりやすく答えやすいアンケートにしていくことは大切であるため、今の意見を参考にし、幅広い意見をいただけるよう努めていきたい。

○阿部会長

おそらく統計的な優位性を保ちながら無差別で抽出すると思うが、統計的な優位性を保てる範囲で、今発言のあった方々からの意見を拾えるような配慮について、アンケート調査の専門家であればそのあたりの兼ね合いができるのではと思う。意見として受け止めていただきたい。

○立岡委員

以前子ども分野の計画でも伝えたと思うが、アンケートを作成する際に、事務局が原案を作り、そのままの内容で実施するというつくりになっている。やはり会長、副会長を交えて内容を精査することが必要ではないか。

内容の決定後や、アンケートを実施した後に委員会が開かれることもあるが、そうではなく委員に提案してからアンケートを実施することが極めて大切。専門家の意見という意味で最終的に大学の先生方に調整してもらうことで、広い意見を取り入れた生きたアンケートになってくるのではないかな。

この問題は当分科会だけでなく、仙台市全体で考えてもらいたい。宮城県の会議でも同様な発言をしたことがあるが、アンケートを行う前に会議を開いてほしいと強く感じる。折角丁寧に実施しているため、ご検討をお願いしたい。

もう 1 点、勘違いかもしれないが、仙台市の居住支援協議会が出来たわけだが、地域福祉計画と住生活基本計画か賃貸住宅供給計画かが相互に乗り合いするという方向性を聞いてい

る。基本的に、住宅確保要配慮者はある意味地域福祉の分野で支援が必要な人であるため、今後は地域福祉と住宅施策は切っても切れないのではないかと。忙しいとは思いますが、健康福祉局としても居住支援協議会に来てもらいたいと思う。

○阿部会長

要望として受け止めてもらえればと思うが、本日の時点で事務局より発言できることがあればお願いしたい。

○社会課長

アンケート内容を委員にお尋ねすることについて、プランを作るうえで最も大切な情報源の部分であるため、広く意見をいただくことは大変重要だと考えている。その部分を意識して着手したいと考えている。

また、様々な他施策の状況を意識しながらプランを作成することは重要なことであるため、そのあたりもアンテナを高くしながら対応していきたい。

○大槻地域福祉部長

2 点目について補足する。住宅セーフティネット法の改正を受けた話かと思うが、この地域福祉計画は社会福祉法上、各分野別の福祉計画の上位計画という位置づけになっているため、当然ながら居住支援法人との連携強化等にも配慮しながら策定を進めていきたい。

○阿部会長

少なくとも副会長には拒否感はないと思うが、この項目は聞いてよい、この項目は足りないというものはあるかと思う。本日いただいた意見を踏まえ、部分だけでも構わないため、当委員会にかけの素案の前に、できるだけ沢山の皆さんに尋ねてもらおう努力をしてもらいたい。

○伊丹委員

アンケート調査は難しいものだと思っている。既に話にも出ているが、回収率を意識していく必要がある。見て回答する気持ちになるアンケートでないと、一般市民は捨ててしまうのではないかと。自分なら一般市民としてそのような感覚がある。

そのため興味を引くような、どのような方を対象にしてもその方に合ったアンケートの内容でないと、先ほど言った現象が起きてしまう。5,000 人を対象にしても回収率が悪ければ、次期計画の中で生かすことが難しくなると考えるため、その辺もご配慮いただきたい。

○渡邊礼子委員

分かりやすい言葉で、横文字を使わないようなものがよいと思う。

○社会課長

パッと見たときに分かりやすく、求められていることが分かる表現であることがアンケートの回答につながると思う。極力我々が使用する役所言葉ではなく、皆様にとって分かりやすい表現を強く意識しながら取り組んでいきたい。

○阿部会長

他はよろしいか。本日も沢山の積極的なご意見を頂戴し、円滑な進行に協力いただいたこと、御礼申し上げます。

(7) 閉会